

絵本に音をつけるという行為についてどう思いますか。

・は賛成意見、⇔は反対意見

【意見】

- ・音楽で絵本を表現することは、演じ手も楽しいし、見ているほうも楽しい
- ・音加わること盛り上がる
- ・間に音楽が入ることにより絵本を楽しめる
- ・絵本の世界のイメージを膨らませやすい
- ・音をつけ加えることによって、「人の声+音楽」になり、より楽しく集中して絵本の世界へひきこまれる
- ・伝え手がその絵本から何を感じたのかが伝わってきて、新しい発見もできる
- ・短い絵本に音をつけることで、内容が濃くなる
- ・音をつけると（0・1歳児も）目だけでなく耳でも楽しめる
- ・登場人物の感情をはっきり表すことができる
- ・音をつけることで、子どもの想像力が豊かになる

⇔子どもの想像力が養われない

⇔音によってイメージが固定される

- ・幼い時から音楽に接することで、感受性が豊かな人間に育つ一助となる
 - ・絵本をみる世代を広げることができる
 - ・目で見たいイメージと音を聴いてできたイメージに差をつけられる
 - ・見る側のイメージを大きく変えられる
- ⇔常にではなく、たまにならいいと思う（絵本独自の良さを守るため）
- ・読み聞かせだけでは味わえない楽しみ方がある
 - ・臨場感を味わえる
 - ・大人数にも対応できるものになる
 - ・音をつけることで長くても飽きずに見られる
 - ・1冊の絵本でも何回も様々な楽しみ方を可能にする
 - ・雰囲気を変えることや、数通りの見方を作ることができる
 - ・細かい部分も意識して絵本を読むようになる
 - ・場面転換をしやすい。また、次への期待をもたせるようなつなぎも可能である
 - ・必ずしも、悲しい場面には悲しい音楽をあてはめるのではなく、意外性について面白くできる
 - ・さまざまな音を表現するキーボードで子どもたちを魅了できる
 - ・みんなで歌を歌うことであたたかみや楽しさが増す
 - ・ピアノの苦手な先生も気軽に音楽を取り入れられる
 - ・声のトーンの変化だけでは表現しきれない場面の移り変わりや感情の変化を表現できる

【これから試みたいこと】

- ・子どもたちに生活発表会などでさせることもおもしろい
- ・子どもたちの意見を取り入れながら一緒に作ってみたい
- ・絵本と同じように、紙芝居にも音をつけることができる
- ・長くて複雑なものを一人で演じるには難しいが、短くてわかりやすいものなら一人でできるので実習でも挑戦してみたい
- ・実習などで是非やってみたい
- ・子どもの生の反応をみてみたい

【苦労した点・大変だった点】

- ・最後まで飽きさせないようにすること
- ・どうしても合う音が見つからなかったこと
- ・音色などの名前も見ても、その音色がどんなものなのか分からなかったこと

- ・グループ内で一人ひとり絵本の捉え方が異なっていたこと

【気をつけた点・発見】

- ・1ページ1ページ全てに音をつけるとごちゃごちゃするので、ポイントや場面の変わり目などにつけるとよりイメージがしやすくなる
- ・話のテンポに合わせて、音を鳴らすような表現が効果的
- ・音を挿入するタイミングでイメージが変わる
- ・絵本をよく理解し、音を生かすつけ方をしなければならない
- ・絵本の妨げにならないようにする（補助的役割であること）
- ・あまり印象の強い音は絵本に影響するので控えるべきだ
- ・想像する手助け程度の音をつけるだけの方が、子どもの想像力を高めるのにも良い
- ・ピッタリの音色やソングが見つからなくても、連想させるような効果音や曲を選び代用することで補える
- ・音にこだわりすぎて、絵本を見失わないようにすること
- ・音や曲の入るタイミングや切るタイミングを間違えると非常に不自然になるので、連続で曲をつける場合、曲と曲を少しかぶせるくらいが良い
- ・全く音をつけないページも必要
- ・間の取り方が大事
- ・繰り返しの場面には同じ音をつけることでインパクトを与えられる
- ・BGMや効果音に負けないよう読むこと
- ・悲しい、つらい、寂しいなどを表現するにはテンポが遅く短調のものが合うこと

【感想】

- ・BGMとして音楽をつけるのは簡単だったが、効果音の作り方が難しかった
- ・自分の知っている曲が流れたら嬉しいし楽しい
- ・音楽が流れるだけでワクワクする
- ・初めは難しく感じていたが、楽しくできた
- ・新たな楽しさが見出せた
- ・ポップアップ絵本のような感じがした
- ・読み聞かせの枠を超え、壮大なものへと変化していくよう感じた
- ・ひとつの人形劇やお芝居のような感じがした
- ・ドラマを作っているような感じがした
- ・絵本とオペレッタの中間の存在
- ・絵本と劇の中間の存在
- ・より多くの曲や歌を知っていれば、音をつける際に便利だと思った
- ・聞き手側に違和感がないかどうか不安に思った
- ・一人で演じるものではなく、グループで演じるものであると思った
- ・電子キーボードにない音を作り出すことも楽しかった
- ・絵と音は繋がっているのだと感じた
- ・絵本とは区別し「音楽絵本」という領域にすればよいと思った
- ・音をつけることで自分たちだけの絵本ができるのだと思った
- ・新しい電子キーボードの活用方法を知ることができた
- ・現場で生かすことのできる授業で良かった